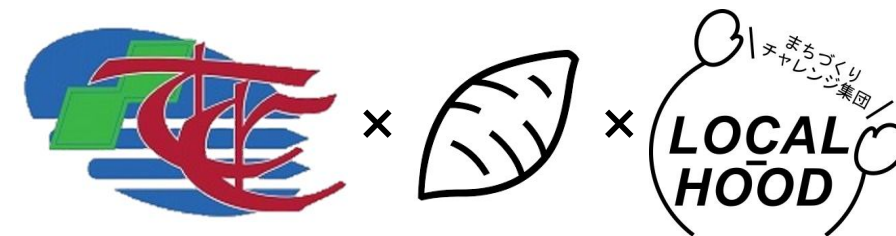


種子島でのんびり田舎暮らし

～貸せない空き家を、種子島の生活を知る拠点にリノベーション～



【プロジェクト概要】

- ・島内の農家が所有しており、現在管理に悩んでいる空き家をリノベーションし、貸別荘として一定期間(1日～3週間程度)貸し出すというものです。農家さんは空き家の所有者、高校生はリノベーションの企画・支援・運用を行い、まちづくり法人が中間支援・旅行者の受入・運用支援を行います。
- ・この事業の独自性は、高校生が主体となり、地域住民・まちづくり法人と共に継続的に取り組むことにあります。
- ・このプロジェクトにより、地域が得られるメリットは以下の3点です。
 - ①増加する空き家の有効活用の新たな糸口が見つかる
 - ②移住の促進を図る
 - ③高校生の地元探求の促進による人材育成を見込むことができる

【このプロジェクトが生まれた背景】

- ①過疎化に伴い空き家は毎年増加していますが、「空き家バンク」にはほとんど登録されていません。理由は「いつか家族が島に帰ってきたら使うかもしれない」や「親戚が来た時にだけ使うから」などであり、言い換えると空き家をそのままにしておくのは「島の人の優しさのせい」とも言えます。しかし、今のままでは誰も管理しない空き家はどんどん朽ちていき、島の人の優しさの象徴とも言える空き家は「島の負の遺産」になっているのはとてももったいないと思いました。
- ②地域が元気に残っていくためには、地域の経済が活性化することが手段の1つにあります。そのためには、もともと移住者が多く、外からの人を受け入れる人柄の種子島の強みを生かし、より移住者を増やすような施策が有効だと考えました。そのためには、すでに種子島に興味があり移住を検討している人ではなく、観光として種子島を訪れる人をターゲットにし、観光だけでなく種子島の生活を感じてもらえるような仕掛けをつくることで、「意外とこんな生活もありだね」と思ってもらい、種子島に移住するきっかけをつくる必要だと考えました。

【プロジェクトのメリット】

以下、家主、利用者、種子島それぞれのメリットについて述べます。

家主のメリット

- ・空き家を別荘として貸し出すことにより、収入を得ることができる。
- ・家主の親戚が来るときや自分が使いたいときは、予約を取らないなど臨機応変に設定できる

利用者のメリット (移住するつもりはないが、期間限定の田舎暮らしをしたい人)

- ・滞在期間中、海のレジャーなど種子島を満喫でき、リフレッシュできる。
- ・Wi-Fi完備により、仕事をしながら一定期間、種子島の自然や田舎暮らしを楽しむことができる。
- ” (種子島への移住を考えている人)

- ・農業体験や地域の人との交流も含めた、移住前の疑似体験ができる。

種子島のメリット

- ・利用者に観光プラン、海のレジャー体験プラン、などを提示することで地元産業の活性化に繋がる。
- ・期間限定の田舎暮らしを移住のきっかけにつなげることができる。

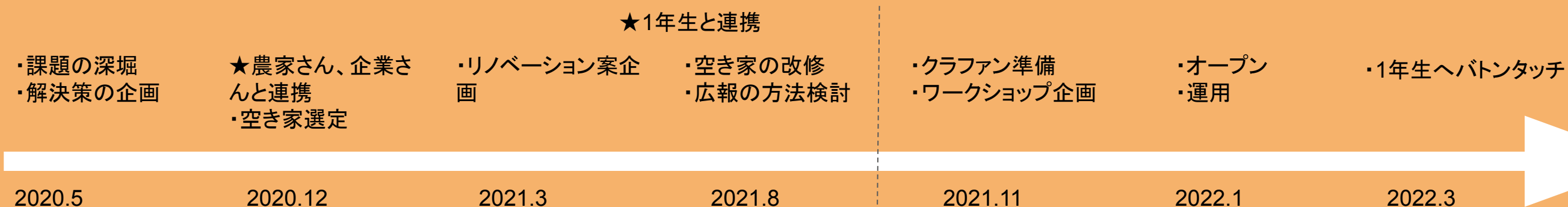
【このプロジェクトの発展可能性】

すでに1年1組との連携を図っており、観光客貸し出し以外でも、以下の方法で別荘を利用することを検討しています。

- ・子育て支援サークルやマタニティサークルの場として利用する。
(例)看護への進学希望の学生の興味関心とリンクするため、保健センターの方との連携を図って実現する
- ・各種ワークショップ会場として利用する。
(例)焼酎酒造が実家の学生の興味のある、地元の焼酎と会う郷土料理のペアリングを、JA女性部と連携を図って発見する

※地域活性化は、外からの人を楽しませることと、内にいる人が自ら楽しむことが大切で、車輪の両輪のようなものであり、どちらか一方では成功しません。空き家リノベーション事業は、島外からの観光客を受け入れる場としてだけでなく、島内のコミュニティを深める場としての役割も果たすことができるため、地域活性化につながります。

実現までのステップ



☆ イマココ